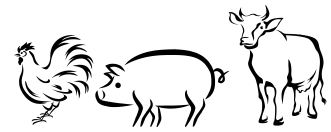


畜産物の需給動向



◆概況

23年度の畜産物の需要量、総じて前年を上回る

23年度の需要量については、消費者の経済性志向を反映して小売価格が低下したことにより、前年度を上回った。畜種別では、牛肉は対前年度比2.6%増と、3年連続で前年度を上回った。豚肉は、同1.9%増となった。鶏肉は同0.6%増と4年連続で前年度を上回った。牛乳・乳製品は同2.3%増と2年続けて前年度を上回った。

「食料・農業・農村基本計画」(平成22年3月閣議決定)においては、平成32年度における望ましい食料消費の姿として、1人当たり年間消費量を牛乳・乳製品89キログラム、牛肉5.8キログラム、豚肉12キログラム、鶏肉11キログラム、鶏卵17キログラムと見込んでいる。

一方、23年度の1人当たりの年間消費量(概算値)は、牛乳・乳製品が88.6キログラム(うち飲用31.6キログラム、乳製品56.8キログラム)、牛肉が6.0キログラム、豚肉が11.9キログラム、鶏肉が11.4キログラムとなった。

生産量については、牛肉は21年度以降前年度を下回って推移し、23年度は対前年度比1.4%減となった。豚肉は、22年度は宮崎県における口蹄疫の発生や猛暑の影響により同3.2%減となった。23年度には口蹄疫の被害からの回復がみられたものの、前年度並みにとどまった。

鶏肉は、景気の低迷による消費者の経済性志向により需要が高まったことから、22年度は対前年度比0.3%増となったが、23年度は東日本大震災の影響により同2.8%減となった。

鶏卵の生産量は、22年度には対前年度比0.3%増となったが、23年度は東日本第震災の影響により同0.9%減となった。

牛乳・乳製品の生産量は、22年度は対前年度比3.2%減となり、23年度も同1.3%減となったことから、6年連続で前年度を下回ることとなった。

図1 畜産物の需要量の推移

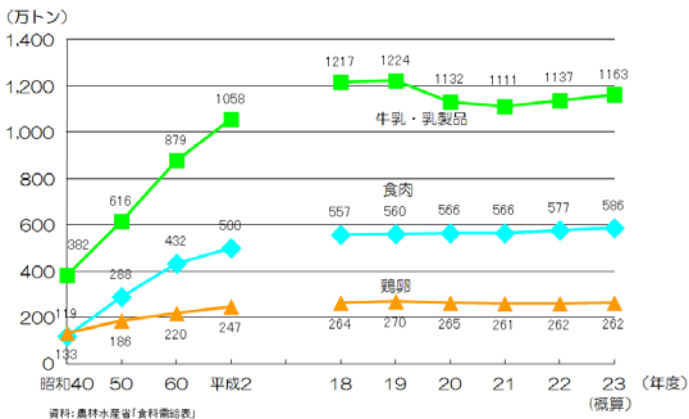


図2 畜産物の生産量の推移

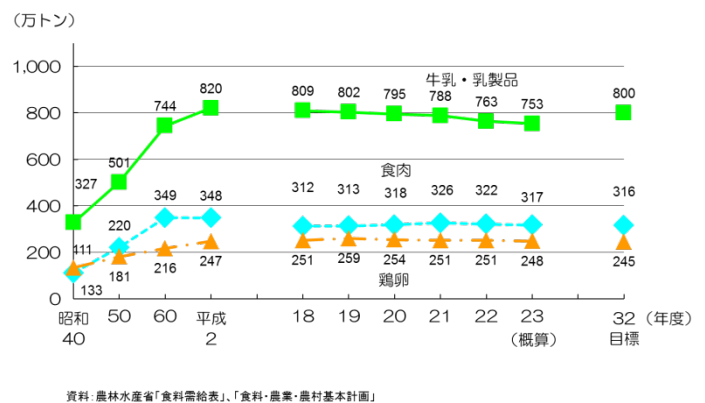
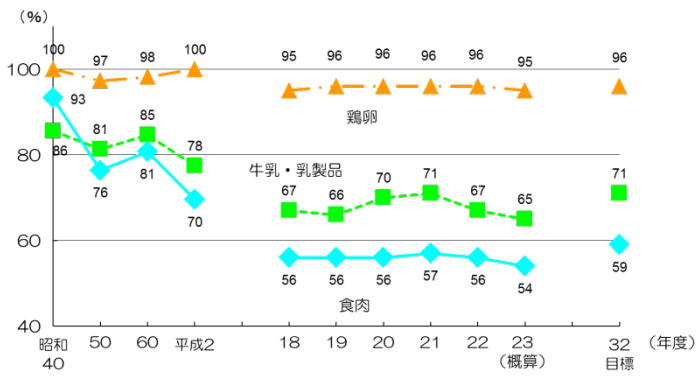


図3 畜産物の自給率の推移(重量ベース)



資料: 農林水産省「食料需給表」、「食料・農業・農村基本計画」

食肉の自給率(重量ベース)は、生産量の減少や輸入量の増加により、23年度は前年度と比べ2ポイント下げて54%となった。畜種別では、牛肉は同2ポイント下げて40%となり、21年度以降前年度を下回って推移している。豚肉は、21年度は55%と前年度比で3ポイント上回ったものの22年度は下落し、23年度は同1ポイント下げて52%となった。鶏肉は、前年度から2ポイント下げて66%となった。

牛乳・乳製品についても、生産量の減少や輸入量の増加により、前年度と比べ2ポイント下げて65%となった。